

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

令和2年1月31日

協議会名：	南城市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>南城市は沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南島へ12kmに位置し、静穏な中城湾と太平洋に面している。東西18km、南北8kmの広がりを持ち、面積は49.94km²、人口は44,232人(令和元年10月末)となる。西側を除く三方が海岸線に接しているが、平坦地が少なく傾斜の多い地形となっている。</p> <p>バス路線網は、市内全域に整備されているが、運行本数が少なく、また、那覇バスターミナルを起点に路線網が形成されていることから、まちの拠点と位置づけている旧4町村の中心部相互を結ぶ路線が不十分であり、移動のほとんどを自家用車に頼っている状況となっている。バス停は市内各地に点在するが、傾斜地が多いことからバス停までのアクセスに不便を感じている方が多い。</p> <p>このような状況を背景に、平成25年度からドアtoドアのデマンドバス「おでかけなんじい」の実証運行を行い、平成28年度から本格運行に至っており、市民の足として定着しつつある。しかし、市域の範囲の広さにより、乗合率をこれ以上向上させるのは困難となっている事や満員により予約を断る件数も増えており、デマンドバスのみでは移動需要を満たせない状況となっている。このため、令和元年10月より公共交通再編を実施しており、市内の移動需要を満たすためNバス(市内バス)を導入し、デマンド交通の負担軽減を図り、必要な方が必要な時に利用できる環境づくりを進めている。また、市外向けに幹線バス(従来の路線バス)を運行し、Nバス、デマンド交通が一体となった、利便性の高い公共交通ネットワークの形成を進めている。</p>